

富士山憲章 NewsLetter

2018

3

No.125

富士河口湖町 天上山公園から望む富士山

第15回 富士さんへ謹賀新年～富士山あて年賀状～

富士山ボランティアセンターでは、富士山の環境保全に向けた意識や関心を深め、美しい富士山を将来にわたって守り引き継いでいくことを決意した「富士山憲章」の理念を広めるため、今年度も富士山宛ての年賀状を全国より募集しました。

43都道府県より、過去最多となる**1,800通**もの力作をお寄せいただき、厳正な審査の結果、**最優秀賞1点、審査員長賞1点、審査員特別賞2点、優秀賞16点を含む入選200点**を決定しました。

たくさんのご応募、誠にありがとうございました。

審査員

審査員長	櫻井 孝美 氏	(安井賞受賞画家 富士吉田市在住)
審査員	百瀬 淳一 氏	(山梨県立美術館 副主査・教育主事)
審査員	志村 勇 氏	(山梨県富士山世界遺産センター 副所長、 富士山憲章山梨県推進会議 事務局長)
審査員	五十嵐 哲也 氏	(富士技術支援センター 主任研究員)



1月24日(水) 予備審査



1月26日(金) 本審査

総評

◆ 応募総数1,800点の中から、予備審査で200点が選ばれ、その200点の中から20点を選定するという非常にシビアな作業でした。20点の作品の差はほとんど感じられませんが、なかでも、最優秀賞・審査員長賞・審査員特別賞の4点は目を引いたといっただいでしょう。

◆ 様々な工夫、様々なメッセージがあり驚かされました。富士山の近くにお住まいの方もいれば、遠いところにお住まいの方もおり、皆さんの富士山への愛に溢れる作品ばかりでした。

◆ 日本全国から多数の応募があり、力作揃いでした。回を重ねる毎に応募数が増えていることから、富士山の存在の偉大さとともに、日本人の心の中にある富士山を感じました。

◆ いずれも富士山へのあこがれや親しみの気持ちがよく伝わってくる力作ばかりでした。時間をかけて丁寧に美しく描かれたイラストにも驚かされましたが、それぞれの方が生活のなかで経験したことや思ったことを、富士山に伝えたいという気持ちが、年賀状に込められているのが印象的でした。

入賞作品

最優秀賞



山内 和 (山梨県・中学生の部)

◆ メッセージ性・表現力・オリジナル性・企画力ともに目をひきました。富士山に対する思いが文章として書かれており、生きる勇気を感じている事がよく理解できます。カラフルな色使いで、夢と未来への明るい展望を感じさせます。富士山と本人を同列に配置した構図も楽しく、周りを取り囲む山梨県の山々もイラスト風に表現され視覚を楽しませてくれます。

◆ 甲斐市から富士吉田市に引っ越して2年という中学生の作品で、甲斐市から見える山々と富士吉田市から見える富士山・三つ峠両方に対する感謝の気持ちが感じられ、富士山とそれを取り囲む山々の魅力を誰よりも感じていると思いました。山ひとつひとつの特徴をよくとらえ「本当に好きなんだな」と感じました。

審査員長賞



林 夏葵
(山梨県・小学生低学年以下の部)

「ふじさんのようにきれいにかがやく人になれるといいな」強烈なメッセージです。絵も単純明快です。クレヨンでの色彩で力強いイメージを受けます。色彩対比が赤と白、そして光輝く黄金の黄色、明るく希望に満ちた年賀状となっています。

審査員特別賞



森 響
(山梨県・中学生の部)



幡野 ゆり
(福島県・一般の部)

山肌の表現、文字や絵、配置の上手さはもちろん、文章の内容も最高でした。スイスに行って感じたこと、これから来るスイスの中学生と体験することへの期待、様々な気持ちが富士山に込められた年賀状です。

富士山を帽子に見立てるという発想がとても奇抜な作品です。カラフルな色使いの中に、和服、梅の花や桜の花びらなど、日本らしさが上手に表現された年賀状です。頬を紅潮させた女性の表情と文章に、富士山への思いが伝わってきます。

優秀賞



東條 すず
(山梨県)



奥脇 真奈
(山梨県)



加藤 里紗
(山梨県)



天野 涼
(山梨県)



三浦 遼大
(山梨県)



森 七海
(大阪府)



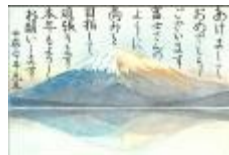
三浦 可嵩
(山梨県)



鈴木 夢菜
(静岡県)



齋藤 夏葵
(東京都)



八木 薫
(静岡県)



依田 華音
(山梨県)



三浦 竜司
(山梨県)



堀 晶子
(茨城県)



加藤 まゆら
(東京都)



川添 陽奈
(神奈川県)



田村 和清
(福岡県)

入賞作品展

全国よりたくさんの応募をいただいている本事業、受賞作品をより多くの方々に楽しんでもらうため、東京都内でも作品の展示を行いました。

2月4日（日） 中部インフォメーションプラザ in 京王新宿（新宿区 京王モール内）

山梨県立富士山世界遺産センターと合同で開催したPRブースにて入賞作品20点を展示しました。県外の受賞者のご家族やご友人等多くの方が足を運んでくれました。

また、ブース内において実施した富士山に関するアンケートでは、70名の方にご協力いただきました。90%以上の方が富士北麓地域を旅行等で訪れたことがあり、そのうち多くの方が富士山に観光で訪れていましたが、美しい富士山を後世に引き継ぐことを目的に制定された「富士山憲章」や「富士山の日(2月23日)」を知っている人はわずか20%程しかいませんでした。このアンケート結果を今後の事業や啓発活動に役立てていきます。



2月5日（月）～2月16日（金） 山梨県東京事務所（千代田区 都道府県会館内）

あまり一般の方の出入りは多くない場所ですが、都道府県会館13階の山梨県東京事務所前のショーウィンドウでも作品展を実施しました。各都道府県の東京事務所の方々が足をとめてくださり、本事業に興味を持っていただけましたようです。



- ◆ 入賞作品や審査員の講評は富士山ボランティアセンターのホームページでも公開しています。
- ◆ 今後の入賞・入選作品巡回展の日程は背表紙をご覧ください。



1. 非常に明るい対象(氷のオブジェと富士山の東側稜線)と暗い対象(手前の樹海)が混在した構図

山梨側から富士山を撮るということは、光を考えないわけにはいかんのだ。何故なら富士山が南にあるからじゃ。富士山と太陽が一日のほとんどは同じ側にある。一枚の写真に、めちゃ明るい対象と暗い対象を同時に写す構図が増えるわけじゃ。デジタルカメラはシャッターが開いている間に、入って来た光をセンサーで感じ取る。じゃがセンサーが感じ取れる明るさには限界がある。感じ取れる最も明るい光と最も暗い光の範囲をダイナミックレンジと言っのじゃ。

① 山梨からの富士山



今回は少し趣向を変えて写真機の話しよう。テーマは「白と黒」じゃ。写真機が写すのは光。だが虹を思い浮かべても分かるように光には白と黒が無い。中学校で習ったように、光の三原色の青・赤・緑が混ざると白になる。色の三原色のイエロー・マゼンタ・シアンが混ざると黒になる。他方には、自然界の白と黒は色ではなく明るさだという説もある。今回はこの明るさについて話したい。じゃが、これも、ラティチュードやら露出やら絞りやらと詳しく話せばきりがない。ここでは大雑把に、ダイナミックレンジというキーワードで話そうと思う。もちろん嘘は言わんが、簡略するので、いい加減と思ったら各自勉強してくれ。

② 白とび・黒つぶれ

ダイナミックレンジより外の光は、そのセンサーでは感知できない。センサーが感知できないということは何も写らないということになる。写真で、明るすぎて何も写っていない部分を白とび、暗すぎて何も写っていない部分を黒つぶれという。

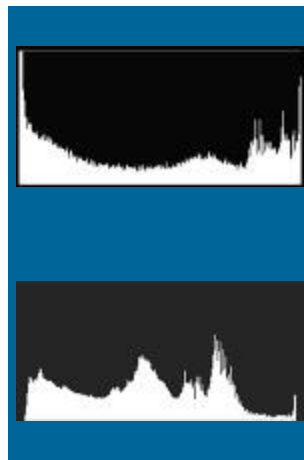


2. 空と湖面が白とびをした写真

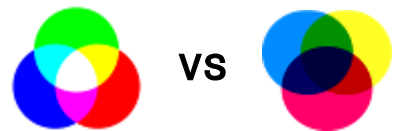
左の写真を解析すると、右のような画像になる。この画像で黒くない部分が、写真で白とびをしている部分じゃ。この写真のこれだけの部分が、実は何も写っていないということになるのじゃ。個人的には黒つぶれよりも白とびの方が許せん。暗闇はあるが、真っ白で何も無いというのは、自然界では考えられんからな。



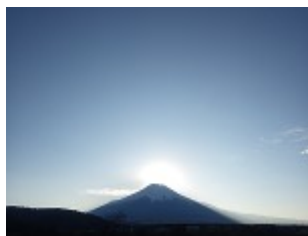
最近ではヒストグラムがついておるカメラも多い。光の分布が一目で分かる。横軸は右ほど明るい光、縦軸は光の量を表しておる。つまり上のヒストグラムのように右端が飛び出しておれば白とび、左端が飛び出しておれば黒つぶれしている。下のヒストグラムは①の写真のヒストグラムじゃ。明暗の強い写真じゃから左右に広く高く分布しておるが、両端は切れており白とびと黒つぶれはしておらんことが分かる。ダイナミックレンジを電子制御するHDRのような機能がついているカメラも増えておるが、ヒストグラムが平らで、不自然な写真になる事も多いわ。



③ ヒストグラム



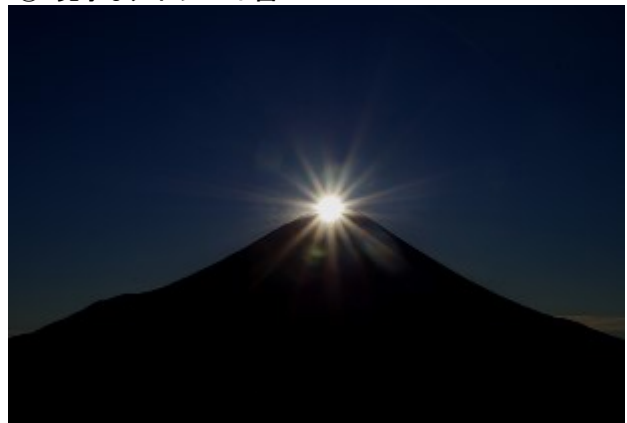
④ ダイヤモンド富士



③ 白とびダイヤモンド

富士山と太陽と言え、撮影スポットに多くの三脚が立ち並ぶ「ダイヤモンド富士」なる現象がある。富士山の西では日の出、東では日没に、太陽がちょうど富士山頂に重なる現象をこう呼んでいる。じゃが、富士山頂に太陽が重なれば何でもよいわけではない。その際、太陽がダイヤモンドのような輝きを見せる瞬間があるのじゃ。そこを撮るのじゃ。左の写真は絵に描いたような失敗作、解析すると白とび部分が鎮座しておる。ヒストグラムも右端が飛び出しておるのがよう分かる。右のダイヤモンドが出ておる写真と比べれば、一目瞭然じゃ。

④ 見事なダイヤモンド富士



①～③の写真は富士山レンジャーが巡回中に撮影したもの。④のダイヤモンド富士の写真は環境省より提供いただいた。



寒さが少し緩み、そろそろ散策に出かけようか、という季節になってきたので、今回はテレビでも紹介された富士風穴にスポットを当てる。



怪しく口を広げる富士風穴入口

富士風穴は青木ヶ原樹海にある富士山麓最大級の溶岩洞穴で、国の天然記念物にも指定されている。風穴の中は一年を通して0℃前後に保たれており、解けることのない天然氷が存在する。一步中に入れば、氷が作り出すとても素晴らしい光景を見ることができ

る。水といえば冬のイメージだが、風穴内で氷筈(ひょうじゆん)が最も成長するのは3月頃だ。ということは、ちょうど見頃を迎えた氷筈を堪能できる。

風穴に入ると目につくのが木の板や車輪のようなものだ。富士風穴はかつてはお蚕様の卵を保存する天然の冷凍庫でもあったのだ。今は残された遺物にその名残を感じることができる。



かつての台車の跡

その周りには立派なつららや、天井から滴り落ちた水滴が凍りついた氷筈が見られ、中にはつららと氷筈が繋がった氷柱もある。足元は数メートルの厚さの氷の床となっており、滑るので歩くには注意が必要だ。狭い通路を通

り抜けると奥には広場が広がっており、とてもきれいな氷筈をいくつも見ることが出来る。さらにこの氷は透明度が高いのでライトをあてるとより一層幻想的な姿になる。



ライトで照らした氷筈



1mを超える氷筈

富士山レンジャーは、富士山の開山時期を除き、ほぼ毎週、定点観測をしており、氷の成長具合を調べている。



定点観測の様子

◆ 入洞時の注意・手続き等

富士風穴へ入洞する際はまず、必要書類を各所に提出しなければならぬ。富士風穴は前述の通り天然記念物に指定されているため、富士河口湖町に入洞届を提出する必要がある。さらに、風穴周辺は山梨県の恩賜県有財産(県有林)であるため5人以上での利用の場合、富士・東部林務事務所への入山申請も必要となる。

許可が下りたら入洞できるわけだが、入洞する際に守らなければならぬ注意事項がある。

具体的には、まず風穴内でのアイゼ



アイゼンによる踏み跡、つららを含めて氷を傷付けないように



ン・ピッケルの使用は禁止。インターネットを見ると、よくアイゼンを履いて入洞している人がいるが、これは禁止行為であるため絶対に真似はしないで頂きたい。さらに彼らは、入洞届を出している様子もないので、事前に必要書類を提出すること。足元が氷でツルツル滑るので履きたくなるし、ウエブサイトによっては「アイゼン必須」と書いてあるページもあるが、アイゼンは禁止だ。大切なことなのでもう一度、**アイゼンは禁止。**



氷の回廊



去年3月の広場の様子

入洞に関しての注意事項は風穴のすぐ近くに看板があるが、インターネット上にはこれは掲載されていない。入洞届・入山申請提出が不可欠、アイゼン・ピッケルの使用禁止の他、テントの設置、焚き火、動植物の採集、車輛(自転車含む)乗り入れなどが自然



透明度が高いので向こう側が透ける

公園法・文化財保護法で禁止されている。キレイだからと花を摘み取ったり、水を持ち帰ったりできないのだ。インターネットの怪しい情報を鵜呑みにしないで、適正利用を心掛けてもらいたい。またこの富士風穴、実は崩落の危険性がある洞穴である。滑つての転倒も含め、中でのなにか起こるか分からない。入洞届・入山申請の提出の間も含め、個人で入洞するよりも、できればエコツアーに参加されることをおすすめしたい。エコツアーに関しては各エコツアー会社に問い合わせしてほしい。ルールを守れば、最高に素晴らしい景色が見られ、非日常を体験できる。是非一度は素敵な氷をご覧ください。

<問い合わせ先>
 富士河口湖町
 教育委員会生涯学習課
 0555-72-6053
 富士・東部林務事務所
 0554-45-7814



注意事項はよく読もう

「筒口(つづぐち)」と
「柄杓流(ひしゃくながし)」

三ツ峠屏風岩のある南側の谷を下る水は、都留市夏狩を通り十日市場で桂川に合流します。川の名を「柄杓流川」と言います。文化三年(1806)十日市場村絵図には「ヒシヤクナガシ」と記されています。この名の由来は『甲斐国志』によれば「河口湖の筒口で柄杓を流したところ伏流して、三ツ峠の湧き出す谷水からその柄杓が出てきたとの伝説からその名がついた」のだそうです。柄杓流川と河口湖の間には、天上山から三ツ峠へと続く尾根があります。柄杓



夏狩の湧水



筒口の入江と天上山(嘯山)

はこの尾根を通り抜けなければなりません。今回、このありえないことについて想像をしてみます。

河口湖は、流入する川はありますが、出ていく自然の川はありません。現在では放水路が造られ



産屋ヶ崎から見る筒口方面



筒口神社

ていますが、かつては地中の溶岩の中を抜け出ていくだけでした。富士河口湖町船津の筒口神社が建っている湖の入江は船津溶岩流の先端になります。言い伝えでは水が渦巻くほどで、ここから柄杓が吸い込まれていったようです。一方、柄杓流川は桂溶岩流の端を流れており、夏狩地区などでは湧水がいたるところに見られます。

春の夕方、筒口あたりから三ツ峠方面を眺めると「ひしゃくの星」北斗七星が立って見えます。筒口神社から少し離れた七軒町地区の小高いところには「妙見社」が祀っております。妙見は北斗七星



七軒町の妙見社

の信仰です。「ひしゃくの星」は一晩かけて天を巡り、翌日には三ツ峠の山の上から抜け出てくる。

以上が想像。昔の人が、どう思ったかわかりません。天上山は「嘯(うそぶき)山」とも言います。柄杓が通り抜けるこの話、信じてみますか？

柄杓流は、「ひしゃくながし」、「ひしゃくながれ」などと呼ばれることもあります。



筒口より眺める北斗七星

氷瀑、母の白滝

今年は全国的に過去の積雪量を更新するところもあり、厳しい冬となりました。2月上旬北麓地域も連日 -10°C 以下を記録する寒波を迎えました。河口湖に流れる寺川の上流の滝へと、河口浅間神社脇の坂を上って行くと、幻想的な母の白滝と出会えます。昔から富士登山者はこの滝で身祓(みはらい)を行ってから、河口浅間神社にて登山の安全を祈願しました。今回は母の白滝の氷瀑を目指します。道には10cmを超える雪が残っており、ウサギや鹿の足跡なども見られました。青空に神々しく凍ったブルーフォール！母の白滝に出会うことができました。正午過ぎには太陽の光が入り、凛々しく清涼感たっぷりです。(2018.02.05)



すぐ隣に母の白滝神社



母の白滝駐車場から望む富士山、河口湖



2018.02.05 撮影



アクセス

- 歩 河口浅間神社より三つ峠登山道を約2km(40分)
- 車 河口浅間神社の裏手の山道を行き母の白滝駐車場まで

注意点

母の白滝駐車場(滝まで徒歩約5分)へ車で行く場合は道路は道も細い所もあり状況によっては凍結している。雪の残る時期は河口浅間神社裏から徒歩を推奨する。

富士山レンジャー活動報告

富士山青木ヶ原樹海等

エコツアーガイドライン推進協議会

平成29年11月28日、富士山青木ヶ原樹海等エコツアーガイドライン推進協議会の会議が行われました。当協議会は環境省、山梨県、エコツアー事業者等により、当該地域の自然環境を守りながら質の高いガイドの養成、ツアーの実施を目的として設置されています。また、ガイドラインが策定されてから10年以上が経過し、新規参入の事業所も増えたことから、研修会も行われました。

今後も富士山の豊かな自然を保全し、後世に残すため、青木ヶ原樹海を利用するたくさんの方々にガイドラインについて周知していきます。



会議及び研修の様子

富士河口湖町内天然記念物 保存管理計画運用委員会

富士山レンジャーは、富士河口湖町の天然記念物についての保存計画にも携わっています。

この委員会は、主に町内で登録されている溶岩洞穴の保存計画や安全管理について話し合います。

本年度は4回開催され、富士山レンジャーが定点観測している富士風穴のデータを発表しました。

天然記念物の利用については、申請が必要な場合があったり、利用マナーが定められていることがありますので、事前に準備を整え、計画的に楽しんでください。



委員会の様子

定点観測の様子



富士山麓環境美化推進ネットワーク 東富士五湖道路側道清掃

平成30年1月18日、富士山麓環境美化推進ネットワークの構成団体とともに、不法投棄やゴミのポイ捨てが多いと指摘された東富士五湖道路の側道と道路敷地内の清掃活動を行いました。



清掃活動の様子

このネットワークは、環境省、山梨県、富士北麓の市町村、企業、環境団体により構成されていて、富士山麓部のゴミの不法投棄等の問題に取り組みしており、清掃活動の実施は今回が初めてとなります。

当日は天候に恵まれ、20団体から約50名が参加し、可燃物115kg、不燃物265kgと予想以上のゴミを回収する成果となりました。



軽自動車から大型車用まで10本以上のタイヤが不法投棄されていた

新任レンジャー紹介



半田 尚人

自然と触れ合い、山をフィールドに活動できる仕事に憧れて、2017年12月にレンジャーに就任しました。

国内外の山々をトレッキングし、海外のレンジャー活動なども目にしてきたので、新しい目でレンジャーの活動に貢献したいと思っています。

山梨県知事から

表彰されました！

山梨県は、「おもてなしのやまなし観光振興条例」に基づき、毎年、優れたおもてなしを実践している県民及び事業者を表彰しています。平成30年1月31日(水)、「第7回おもてなしのやまなし県民大会」において、山梨県富士山世界遺産ガイド会が「おもてなしのやまなし知事表彰」を受賞しました。

世界遺産ガイド会の活動は、富士山が世界文化遺産に登録された平成25年6月直後の7月からスタートしました。世界文化遺産富士山の顕著な普遍的価値を分かりやすく来訪者に理解してもらうために、数多くの研修を重ね、平成27年には「ボランティアガイドの心得七ヶ条」を制定し、おもてなしの心を大事にしたガイド活動を、富士山世界遺産センターにおいて積極的に展開してきました。国内外を問わず多くの方々にガイドを実施し、その数は平成28年12月に一万人を超え、現在約一万五千人となりました。

このような地道なガイド活動が高く評価され、県知事から表彰を受けました。今回の表彰はガイド会メンバーそれぞれの自信にもつながっています。

今後も来館者のニーズにきめ細かく対応できるように研修を重ね、いつでも質の高い案内を提供できるように努力していきます。また、おもてなしの心を絶やさず、来館してくださったすべての方々に、笑顔と満足感を与えられるようなガイド活動が心がけていきます。



質の高いガイド活動をめざす研修の様子

クールジャパンアワード

2017受賞！

一般社団法人クールジャパン協議会では、二年に一度、世界各国の100人の外国人審査員により、世界が共感する「クールジャパン」を発掘、認定しており、このたび、当センターの「富嶽三六〇」が高く評価され、受

賞に至りました。山梨県のモノが受賞するのは初めてとなります。

二年前のクールジャパンアワード2015では、トヨタ自動車の「MIRA I」や小学生が登下校時に背負う「ランドセル」、豊後高田市の「昭和の町」などが選出され、受賞対象はプロダクトを中心とした「モノ」から、まちづくり・文化といった「コト」まで多岐に及んでいます。今回の選出も前回同様多岐に渡っており、その一つに当センターの展示「富嶽三六〇」が選出されました。



「富嶽三六〇」ってなんな展示？



土山の世界を体感することができます。

当センターは、今後「富嶽三六〇」を通してクールジャパン協議会の支援を受けながら、さらに幅広く、積極的に情報を発信していきます。

まだセンターにお越しにならなかった方々には、是非一度、実際にご来館いただき、「富嶽三六〇」で富士山を体感していただきたいと考えられています。また、それを機会に、富士山や世界遺産についてより深く学んでいただくことができれば、さらにありがたいです。



御中道回廊

高さ3m、直径15mの巨大な富士山の展示であり、当センターのシンボルオブジェとなっています。特製の和紙で作られており、日々の移ろいや季節の変化によって様々な表情を見せる富士山を、光や音によって紹介します。小御岳、吉田大沢、宝永火口、大沢崩など、実際の富士山を再現しているため、二階に設置された御中道回廊を一周すると、富士山の方位による形の変化も楽しむことができます。「富嶽三六〇」は、まさに富



COOL JAPAN AWARD 2017に選出された『富嶽三六〇』

第15回 富士さんへ謹賀新年～富士山あて年賀状～ 入賞・入選作品巡回展

以下の日程で、入賞・入選作品200点の巡回展を行います。富士山への様々な思いのつまった年賀状をぜひお楽しみください。

2月28日(水)～3月18日(日)	ラザウォーク甲斐双葉(甲斐市)
3月19日(月)～4月1日(日)	なかとみ和紙の里 現代工芸美術館(身延町)
4月2日(火)～4月27日(金)	山梨中央銀行 本店(甲府市)
5月1日(火)～5月15日(火)	道の駅なるさわ(鳴沢村)
5月16日(水)～5月31日(木)	河口湖ショッピングセンターBELL(富士河口湖町)
6月1日(金)～6月17日(日)	ふじさんミュージアム(富士吉田市)
6月18日(月)～7月1日(日)	四季の杜忍野公園 小池邦夫絵手紙美術館(忍野村)
7月2日(月)～7月16日(月)	山中湖花の都公園(山中湖村)
7月17日(火)～7月31日(火)	三つ峠グリーンセンター(西桂町)
8月1日(水)～8月31日(金)	山梨県立富士山世界遺産(富士河口湖町)
11月13日(火)～12月13日(木)	韮崎市立大村記念図書館(韮崎市)

- ※ 展示開始日は、搬入の関係午後からの展示になる場合がございますので、予めご了承ください。
- ※ 各展示会場の休業・休館日や営業・開館時間に関しては、各会場にお問い合わせください。

富士山環境学習支援プログラムのお知らせ

富士山ボランティアセンターでは、多くの人が富士山とふれあい、知識を深め、富士山を愛する心や環境保全の意識を育むことを目的とした、富士山学習の支援事業を実施しております。交通費や謝礼は一切必要ありません。各種研修にぜひご利用ください。

実施日・時間	原則として平日の毎日(年未年始除く)	9時30分～16時30分の時間帯のうち30分～
対象	地域住民、各種団体、企業等、および児童、生徒、学生(教員向け研修もあります)	
定員	最大60名まで	
申込み	原則として希望日の1か月前までにお申込み下さい。	

所定の申込書に必要事項を記入の上、FAX、郵送またはE-MAILにて送付して下さい。申込書につきましては、以下URLよりダウンロードできます。

<http://www.yamanashi-kankou.jp/fujisan/manabo/manabo001/index.html>

その他

- ・ 事前の打合せや下見等が必要になる場合があります。
- ・ 業務の都合上、希望日に実施できない場合があります。実施時間、定員に関しては規定外でも相談に応じます。
- ・ 申込み、問合せおよび打合せは責任者が行なって下さい。旅行業者等による代行は認めません。

富士山憲章(行動規範)

- 一 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 一 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 一 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 一 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 一 富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

平成10年11月18日 山梨県・静岡県

富士山憲章は、富士山の自然環境等の保全の理念や環境保全のための行動規範を示すことにより、富士山の環境保全への協力を訴え、国民的な規模で保全運動の展開を図っていくこと目的としています。

■編集・発行 富士山ボランティアセンター (富士山憲章山梨県推進会議)

山梨県南都留郡富士河口湖町船津6663-1
(富士山世界遺産センター北館内)
TEL: 0555-20-9229 FAX: 0555-72-4114
E-MAIL: fujisan@eps4.comlink.ne.jp

本誌のバックナンバーは下記よりダウンロードできます。

<http://www.yamanashi-kankou.jp/volunteer/newsletter/index.html>

富士山環境保全関連イベントのメールマガジンを希望する方は、「富士の国やまなし観光ネット 富士の国やまなしメールマガジン」の会員登録画面より登録してください。

<http://www.yamanashi-kankou.jp/maillmagazine/regist.html>